

に絵画を再現できる。
絵が装丁に使われているので、読み

3世紀にまたがる米中の物語

1784年、フィラデルフィアの商人によって「中国皇后号」が広州に送られ、米中の直接貿易が始まった。本書はそれ以来、今日まで3世紀にまたがる米国と中国の物語である。

著者は中国で幼少期を過ごし、日本で米国の焼夷弾爆撃や戦闘機の機銃掃射を体験したベテラン・ジャーナリスト。米国特派員などを務め、これまでも透徹した洞察力で米国社会や日米の和解に関する論考を著してきた。

14年間にわたって米中関係史の文献を渉猟し現場を訪ね歩いた著者の研究調査は徹底している。本書には目を見開かされる興味深い話が満載だ。

ポストン茶会事件は中国からの茶の直接輸入を禁じた英国航海条例への反発から生じた。それは周知だが、「中国皇后号」が毛皮や毛織物、綿花など

を炙り出す。

もともとゴッホとテオの依存関係は

家。著書に「リーチ先生」「ジヴェル
ニーの食卓」など。県内在住。

よるトルコ産アヘンの密貿易も行われていた。

評者が中国研究者の目から見ると、

のほかに米国産朝鮮ニンジンを約30ト
積んでいたことはどうだろう。
そしてフランクリンが経営していた
「ペンシルバニア・ガゼット」誌はすで
に1737年に孔子の教えを紹介して
おり、その200年後に建てられた米

松尾 文夫著



理想主義と現実主義の二面性は中国の
特色でもある。米国人と中国人のある
種の相性の良さは、ここに由来するの
かもしれない。本書でも、毛沢東がプ
ラグマティズム哲学の構築者であるデ
ューイから受けた影響についての丹念
なりサーチが紹介されている。

21世紀の世界に生きる諸国民、なか
んづく日本人は、米国と中国を熟知し
なければならぬ。まったく異なるが、
よく似ている二つの国。その理解のた
めに本書は必読だ。文体も読みやすく、
一般にも広く薦めたい。

(岩波書店、3240円)

著者は1933年、東京都生まれ。

ジャーナリスト。共同通信バンコク支
局長、ワシントン支局長などを歴任。
著書に「銃を持つ民主主義」など。

アメリカと中国

「蒙古襲来と神風」

高原 明生(東京大大学院教授)